

2019年10月1日  
64号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029(354)5111  
発行人 飯嶋和秀  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>  
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

## ごあいさつ — 地域を護る病院として —

院長 吉井 慎一



かけはし10月号ということで、早いもので今年度も残すところ半年となりました。今年の夏は暑いだけではなく、水不足が深刻な一方、集中豪雨被害もあり、日本もますます住みにくい国になってきました。幸いひたちなか市は大きな災害はありませんでしたが、皆様におかれましては、なんとか夏を乗り切れたでしょうか。

さて、今頃は消費税10%が始まっていることでしょう。平成元年4月1日、日本で初めて消費税が導入されました。その後、税率は3%から5%、8%を経て、令和元年10月からは10%になりました。急速に進む少子高齢化社会のなか、社会保障の充実のため必須と国は説明しています。医療では、消費税が導入されたときから問題となっていますが、最終的に医療サービスは消費税の対象外であり、それは現在まで継続されています。医療サービスを提供するには、それに係るさまざまな流動費（医薬品費、医療材料費等）があり、当然これらには消費税がかかります。個室料金や自費給食等は、サービスを受ける患者さんから消費税をいただいております。しかし、保険診療では、それ自体に消費税の概念は無く、最終的に一部負

担する患者さんにも消費税はかかりません。これでは、医療機関の収支が悪化することは明白であり、国は消費税増税分を診療報酬で補うという手法をとってきましたが、国の財源の問題もあり、十分に補填されていないのが現状です。

日本は世界でもっとも安心して医療を受けることができる国です。これには国民皆保険制度がその骨格ですが、救急現場を中心とした、多くの医療従事者の献身的な働きの上に成り立っています。国の進める働き方改革では、医師も労働者として位置付けられる可能性が高く、分業制が進めば、さらに医師数が必要となり、医療コストも当然増加し、特に地方では大きな問題になっています。

小泉政権の「三方一両損」という聖域なき構造改革以来、保険料と患者負担の引き上げ、医療機関の収入減少、製薬会社を含めた企業業績の悪化は継続しています。今後も医療の進歩により、医療費はさらに増加する事が予想されます。今こそ、この三方が「損」ではなく、それぞれが理解・協力しあい、この国の医療を支えていく必要があります。医療機関にできることは、医療の質を低下させることなく、効率の良い医療を提供することです。当院は、以前より積極的にITの導入を推進しており、政府のAI（人工知能）ホスピタル構想に協力し、5年後、10年後も「地域を護る病院」としての機能を果たすために努力する所存です。今後ますますのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

## ひたちなか総合病院・総合健診センタ休日のお知らせ

10月		11月		12月		1月															
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	⑤						1	②	①	2	3	4	5	6	⑦
⑥	7	8	9	10	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗
㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾
㊿	㋀	㋁	㋂	㋃	㋄	㋅	㋆	㋇	㋈	㋉	㋊	㋋	㋌	㋍	㋎	㋏	㋐	㋑	㋒	㋓	㋔

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センタ休日



## 外科



副院長 神賀 正博

当院の外科は、一般外科・消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科を担当しており、各科を専門とする医師が集結し、総勢8名が1つのチームとして仕事をしています。当科として扱う臓器は胃・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・肺・乳腺など非常に多岐に渡ります。特徴としては、地域がん診療連携拠点病院であることから、がんの診療に重点を置いております。

特に消化器領域では、胃がん・大腸がんをはじめとした悪性腫瘍に対して、従来の開腹手術ではなく腹腔鏡下手術を積極的に導入しており、患者さんの疼痛軽減・早期社会復帰をめざした医療を

心掛けております。

また、がんに代表される悪性腫瘍だけでなく、急性虫垂炎（いわゆる盲腸）、鼠径ヘルニア（いわゆる脱腸）、胆嚢炎、憩室炎などの良性疾患の治療にも力を入れております。2019年2月より鼠径ヘルニアに対しても腹腔鏡下手術を導入致しました。従来の方法と比較して傷が小さく、痛みや術後の違和感も少ない新しい治療方法であり、患者さんの生活の質の向上に向けた当科の新しい取り組みの一つです。

虫垂炎や胆嚢炎に関しては、従来から行っていた腹腔鏡下手術をより進化させ、お臍にあけた数cmの傷だけで手術を行う方法も取り入れており、より地域の皆様に貢献できる最新・最善の医療を提供できるよう、日々努力しております。

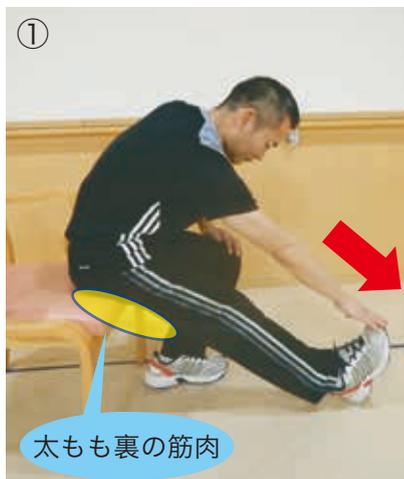
少しでも地域の皆様が安心して日々の生活を過ごされ、最適な医療が受けられるよう、これからも日々精進してまいりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



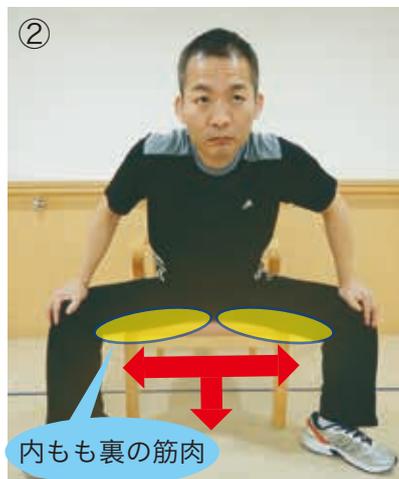
## ロコモ予防：ストレッチ

リハビリテーション科 理学療法士 佐藤 誠

元気な足腰で歩き続けるためには、足腰の柔軟性も重要になります。特に股関節、膝関節の筋肉をストレッチすることで、歩幅が広がり、楽に歩くことができます。ぜひご自宅で実践してみてください（膝痛予防にもなります）。



- ①片足ずつ前に出し、つま先に向かって上半身を倒す。
- ②両足を開き、上半身を倒す。



〈ポイント〉  
痛みを感じない範囲で、矢印の方向に体を動かし、10～20秒伸ばしましょう。  
2～3セット行くと良いです。ウォーキング前後に行ってみてください。

## 地域の先生紹介

## さわ西クリニック

### ●当院の特徴

当院は常磐線佐和駅から徒歩約10分のひたちなか市高場の地にあり、開業して14年目を迎えました。ひたちなか総合病院へは数多くの患者さんを紹介させていただき、また緊急にもかかわらずいつも適切に診断治療していただくことが多く、また逆紹介もしていただいて大変感謝いたしております。専門の泌尿器科疾患から、生活習慣病を中心に内科一般および皮膚科疾患等のプライマリ・ケアに対応しております。電子カルテを用いて、親身で分かりやすい診療をモットーに診療にあたっておりますが、かかりつけ医として多様な患者さんのニーズにこたえられるよう、さらに地域に根差して努力していきたいと考えております。

### ●院長の横顔

昭和37年旧那珂湊市平磯町に生まれ、水戸一高から弘前大学に進学しました。卒業後すぐ東北大学泌尿器科に入局し、東北大学附属病院、仙台市立病院、石巻赤十字病院等を経て、最後はいわき市立磐城共立病院に6年間勤務した後開業しました。趣味は映画観賞や読書ですが、作家では桜田門外ノ変の著者でもある、吉村昭の簡潔明瞭で乾いた文体が好きです。最近ではメタボ傾向を改善しようと休日はスポーツジム通いですが、なかなか効果がみられていません。



院長 鈴木 謙一



医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携推進センターへ

8：15～16：30（月曜日～金曜日）

TEL 029-354-5202（直通）

FAX 029-354-5220（直通）

**第1回ひたちなか総合病院 インフルエンザ市民公開セミナー  
『みんな怖いと感じるインフルエンザ、賢く予防・軽症化！  
～データで語る科学的アプローチ～』**

【日 時】 10月18日（金）18：00～19：00（9月30日（月）実施内容と同じです）

【場 所】 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 2階講堂

【演 題】 『知って得する！インフルエンザ対策 ～予防効果をあげるためのコツ～』

株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 感染管理認定看護師 根本 広子

『データで斬る！インフルエンザワクチン ～明日から行動、満足度UP大作戦～』

株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 救急総合内科 柴崎 俊一

【申し込み・問い合わせ】

株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 教育・研修センター

TEL：029-354-5709 FAX：029-354-6842

**健康のための一歩を踏み出しましょう！**

健診センタ 岩谷 悦子

皆さんは、日頃からからだを動かしていますか？健康に日常生活を送ることのできる健康寿命を延ばすため、厚生労働省の取り組みとして、運動だけでなく「生活全体の中で身体を動かす時間を増やしましょう」という「身体活動の推進」が着目されています。今よりもプラス10分多くからだを動かすだけで、健康寿命をのばせます。まずは、ご自分の身体活動のチェックをしてみましょう。

**1. 気づく！**

からだを動かす機会や環境は、身の回りにたくさんあります。それが「いつなのか？」「どこなのか？」ご自身の生活や環境を振り返ってみましょう。

**2. 始める！**

今より少しでも長く、少しでも元気にからだを動かすことが健康への第一歩です。歩幅を広くして速く歩いたり、家事をしながらストレッチ等+10（プラステン）から始めましょう。

**3. 達成する！**

目標は1日合計60分、元気にからだを動かすことです。高齢の方は1日合計40分が目標です。これらを通して、体力アップをめざしましょう。

**4. つながる！**

1人でも多くの家族や仲間と+10（プラステン）を共有しましょう。一緒に行くと楽しさや喜びが倍増します。

無理をせずご自分のペースで始めてみましょう。治療中の病気や痛みがある方は、主治医に相談して下さい。

**◆◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆◆**

診療科	氏 名	異 動 日
内 科	宮 内 博 基	採用 (2019.10.1)
	久保田 翔 太	採用 (2019.10.1)
呼吸器内科	松 田 峰 史	退職 (2019.9.30)
消化器外科	本 多 正 樹	採用 (2019.10.1)
臨床研修医	田 崎 篤	採用 (2019.8.1)
	木 村 真 緒	退職 (2019.9.30)
	中 柴 徹 也	退職 (2019.9.30)
	高 橋 洋 人	退職 (2019.9.30)
	安 富 元 彦	退職 (2019.9.30)
	針 替 研 太	退職 (2019.9.30)
	飯 村 翼	採用 (2019.10.1)
	黒 田 祥 平	採用 (2019.10.1)
	河 原 さくら	採用 (2019.10.1)
	伊 東 里 奈	採用 (2019.10.1)
山 崎 啄 斗	採用 (2019.10.1)	
浅 沼 翔	採用 (2019.10.1)	